

# 行楽シーズンに潜む危険

カラス・ヒグマ・電気柵に注意

レジャーや山菜採りなど、外での活動が活発になる季節になりました。柵を知らないことで、思わぬけがをすることがあるので注意しましょう。

問い合わせ 農村振興課（市庁舎7階、☎65・4173）

## 春先のカラスに注意



カラスは本来攻撃的ではありませんが、春先から7月頃までは子育て時期のため、巣やひな鳥に近づくと、威嚇行動をとる場合があります。（図1）

威嚇の多くは一部の神経質な親ガラスによるもので、すべての親ガラスが威嚇するわけではありません。また、攻撃性もカラスの種類によって異なります。（図2）

なお、ひなが十分育つと親の羽が生え替わり始め、地面にカラスの羽が落ちる頃には、攻撃される危険性は少なくなるといわれています。

図1 カラスの威嚇行動の特徴

「カッ、カッ、カッ」と鳴きながら頭上を飛び回ったり、近くで鳴く

カッ、カッ、カッ

それでも人が立ち去らない場合…

ポイント 卵やひな鳥がいる縄張りから人が離れると威嚇をやめる

人のそばをかすめるように飛んだり、人の頭部を足で蹴る

※カラスは体の構造上、飛びながらくちばしでつつくことはできません

図2 普段見られるカラスは2種類

**ハシブトガラス**

攻撃性は、ハシブトガラスの方が強い

ビルが多い町（東京、札幌など）

多い場所

多く曲がる

くちばし

ぴょんぴょん歩く

歩き方

**ハシボソガラス**

広い土地が多い町（帯広など）

多い場所

細く真っすぐ

くちばし

てくてく歩く

歩き方

### カラスの集団行動について

カラスは、夕方から夜にかけて大群で移動し、集団で行動する習性があります。これは、夜、外敵に襲われないようにするために、同じ場所で寝るための行動であると考えられています。

表 カラスの営巣場所の相談窓口など

| 営巣場所の状況で異なりますが連携して対応します   |   |
|---------------------------|---|
| ◆公園内の樹木など                 | [代表]みどりと花のセンター（公園ごとの連絡先を紹介）<br>（緑ヶ丘2、☎21・3172）                |
| ◆街路樹、道路用地内の樹木や、河川敷地内の樹木など | ・道路維持課<br>（南町南6線46、道路車両センター、☎48・2322）<br>・管理課（市庁舎6階、☎65・4177） |
| ▽市以外                      |   |
| ◆電柱にできた巣の撤去               | 各電柱についている管理番号を確認し、各管理者に問い合わせください。                             |
| 【その他カラスに関する相談】            |   |
| ◆ごみの飛散対策やカラスの死骸など         | 清掃事業課（西24北4、☎37・2311）   |
| ◆捕獲の許可・有害鳥獣駆除の相談          | 農村振興課（市庁舎7階、☎65・4173）   |

図3

## 電気柵に近づかないでください!!

電気柵は、野生動物の侵入や家畜が敷地外へ脱出することを防ぐため、畑地や牧場などの周囲を特殊なワイヤーで囲い、高圧の電流を流す柵です。

感電する恐れがあるので、むやみに近づかないでください。

◆電気柵を設置している人は設置基準を確認

電気柵を設置している人は、設置基準に基づいて管理をお願いします。詳細は農林水産省ホームページをご確認ください。

## 威嚇されないために

- ・カラスが騒いでいたり、注意看板を見かけたら、その場を避ける、または迂回する
- ・上手に飛べないひな鳥が地面に落下していても近づかない

## 威嚇行動から身を守る

どうしても巣の近くを通る必要があるときは、帽子をかぶったり、傘などで頭を隠しましょう。

## カラスが集まらないようにするには

- ・カラスが集まる原因をつくらないうよう、マナーを守りましょう。
- ・ごみ出しのルールを守る
- ・外で飼っているペットに与えた餌の後始末をする
- ・野鳥に餌をやらない

## 状況が改善しない時は

対策のひとつとして、巣を取り除く方法があります。すべての巣を取り除けるわけではありませんが、カラスの巣が街路樹や電柱に

ある場合は、各管理者へ連絡してください。（表）

巣が自宅の庭などの私有地にある場合は、所有者が対応することになります。野生の鳥獣や卵を捕獲するには、許可が必要です。詳細は問い合わせください。

## 春の山菜採りはヒグマに注意



八千代・拓成・岩内方面はヒグマの生息域となっていて、出没情報もあります。新聞やテレビ、ホームページ、注意看板などでヒグマの情報を確認し、細心の注意を払って行動してください。

## ヒグマと出会わないために

- ・ヒグマは本来、人を避けて行動する動物で、早朝や夕方に比較的活動に動き回ります。また、聴力と嗅覚が非常に発達している特性を踏まえ、次のことに注意しましょう。
- ・日の出、日没時の薄暗い時間帯や風の強い日は野山に入らない

- ・周囲の音で互いに気付きにくい沢沿いを歩かない
- ・鈴やラジオなど音の出るものを携行したり大声で話すなど、ヒグマに人の存在を知らせる
- ・ヒグマのふんや足跡、強い獣臭など異変を感じたら直ちに引き返す

また、野生動物の侵入を防ぐなどの目的で、農場などに電気柵を設置している場合があるので、近づかないでください。（図3）

## ヒグマを引き寄せないために

- ・人が出す生ごみはヒグマにとつてごちそうです。一度その味を覚えると人里に現れるようになり、人との接触事故を引き起こす原因となります。平成29年11月と令和元年12月にはヒグマが市街地にも出没したことから、一層の注意が必要です。
- ・収穫後の農作物や、家庭から出た生ごみを野外に放置しない
- ・庭先の果実を収穫せずに放置しない

山林などに、においの強い食べ物を持参しない

それでも出会ってしまったら

ヒグマと遭遇したときに、確実に身を守る方法はありません。まずは、出会わないように努めることが第一ですが、もし出会ってしまったら、次のような行動が有効といわれています。

- ・冷静に状況を判断するために、まずは「落ち着く」
- ・大声を上げたり、走って逃げるなどしてヒグマを刺激しない
- ◆距離がある場合
- ・静かにその場を立ち去る
- ◆距離が近い場合
- ・ヒグマの目を見ながらゆっくりと後退する
- ・持ち物がある場合は、服などをそっと置く（ヒグマの気をそらして逃げる時間を稼ぐ）
- ◆至近距離の場合
- ・ゆっくりと両腕を上げ、姿を大きく見せゆっくり後退する